

同志社の開校

京都の特殊性(1)

1. 京都は新島の知人が一人もいない都市
 - 新島は「上州系江戸っ子」
2. 京都はキリスト教にとって未開拓の都市
3. 京都は外国人(宣教師)を排除する都市

京都の特殊性(2)

4. 京都は「宗教的首都」「天皇の街」
5. 京都はプロテスタントに対する迫害が起きた都市
 - 市川栄之助事件(1871年)
 - 関忠蔵事件(1872年)

なぜ関西か

- 新島はアメリカン・ボードの準宣教師。
- 宣教師全員が関西に居住していた。

アメリカン・ボードの拠点

- ステーション(伝道拠点)としての神戸・大阪
 - 最初の宣教師グリーン(1869年)。その後、キューリック、デイヴィスらも神戸に。
- 新島は大阪へ。
 - ゴードンの借家に仮住まい。

大阪での学校設立構想

- デイヴィスが新島の学校設立構想を支持。
- キリスト教界以外の支援者
 - 木戸孝允、伊藤博文
- しかし、大阪府知事の許可が下りなかった。

なぜ京都か

- 新島の古都観光旅行(1875年4月)から同志社が生まれる。
- 山本覚馬との出会い

山本覚馬(1)

- 元は会津藩の砲術師範
 - 戊辰戦争では薩長などの「西軍」と戦闘。捕らえられ、京都の薩摩藩邸に幽閉。



山本覚馬(2)

- 獄中で「管見」という建白書を記す
 - 学校、女学、変佛法、等々
- 釈放後、京都府に顧問格として用いられる。
 - 「町興し」として博覧会を開催

同志社英学校設立の経緯(1)

- 1875年3月、ゴードンが山本と出会う。
 - 漢文のキリスト教入門書『天道溯原』を山本に贈呈する。

同志社英学校設立の経緯(2)

- 1875年4月、新島が山本と出会う。
 - 山本はキリスト教学校設立を支援する。
 - 秋、新島と山本八重の婚約が成立する。

同志社英学校設立の経緯(3)

- 1875年8月、「私塾開業願」を府に提出。
 - 同志社の発起人は新島と山本。
 - 文部省のトップは田中不二麿であった。

同志社英学校設立の経緯(4)

- 1875年11月29日、同志社英学校の設立。
 - 生徒は8人、教師は新島とデイヴィスの2人。

ミッション・スクール

- 「影の」設立者はアメリカン・ボード
 - 京都では、外国人は日本人によって雇用される必要があった。
 - 京都では、外国人に財産権はなかった。

第一次大学設立運動(1882-84)

- 大学設立への情熱
 - 自治自立の人民の育成
 - 1882年11月、「大学設立之主意之骨案」を起草
 - 宗教兼哲学、医学、法学を擁する大学
 - 智徳並行主義

第二次大学設立運動(1888-90)

- 1888年、徳富蘇峰が「同志社大学設立の旨意」を起草。
 - 『国民之友』ほか、全国の主要な新聞、雑誌に発表。
 - 「一国の良心」の育成。
- 遺言の中で「政法理財学部を東京に設置」。

大学設立の途上で

- 1890年、ハリス理化学校の設立(1896年閉鎖)。
 - 工学部の前身
- 1891年、同志社政法学校の設立(1904年閉鎖)。
 - 法学部や経済学部の前身

同志社大学へ(1)

- 1912年、専門学校令による大学に
 - 関西では初めての私立大学
 - キリスト教大学としても全国初
 - 神学部と政治経済部(英文科、政治科、経済科)

同志社大学へ(2)

- 1920年、大学令による大学に
 - 関西では初めての私立大学
 - キリスト教大学として全国初
 - 文学部(神学科、英文学科)と法学部(政治経済学部を改称。政治学科と経済学科)